



1



2



3



4



5



6



7

う ろ し の 美

「根来(ねごろ)とは何か?」 いわゆる根来とは堅牢な下地を施した木地に黒漆の中塗と、朱漆を上塗してできた朱漆塗の漆器(朱漆器とも)をさします。おおかで明快な姿かたちに加えて、長年の使用により、表面の朱漆が磨滅して下に塗られていた黒漆が現れ、この古色も大きな魅力となっています。かつて大寺院として広く世に知られた和歌山県・根来寺で、朱漆器が作られていたとする伝承から、後世にこの名がついたといひます。

本展は、根来寺が繁栄を極めた中世の漆工品を中心に、その前後の年紀や伝来の確かな名品の数々から、著名人の愛蔵品や現代に息づく赤と黒に彩られた漆器までを紹介しひます。大阪・関西万博が開催されている今年、JAPANを代表する漆の美を心行くまでご鑑賞ください。

観覧料[税込]

一般: 1,800円(1,600円) 高大生: 1,300円(1,100円)

[チケットの主な販売場所]

公式オンラインチケット(e-tix)、ローソンチケット、チケットぴあ、CNプレイガイド、イープラス、楽天チケット、セブンチケットなど。

※()内は、前売及び20名以上の団体料金。※団体は20名以上。※中学生以下、障がい者手帳等をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料(要証明)。※本展は大阪市内在住の65歳以上の方も一般料金が必要です。そのほか、詳細は展覧会HP等をご覧ください。

イベント情報

[講演会]技法から見た根来—根来と他漆器の違い—

9月28日(日) 11:00~12:00 講師:池ノ上辰山氏(根来塗師・根来塗囃山会主宰)

[担当芸員による見どころレクチャー]

10月11日(土)・18日(土) 14:00~15:00

いずれのイベントとも

会場:1階じゃおりむ 予約:不要 当日30分前より受付にて整理券を配布

参加費:無料(ただし当日の特別展観覧券が必要)

各イベントの詳細や申込方法は、展覧会公式サイトをご確認ください。

●展覧会公式サイト

https://www.osaka-art-museum.jp/sp_evt/negoro

●根来展公式X/Instagram

@negoro_redblack



[お問合せ]大阪市総合コールセンター 06-4301-7285(8:00~21:00、年中無休)

同時開催 特集展示

売茶翁と花月菴—煎茶道はここから始まった!— 9月20日(土)~10月19日(日)



大阪市立美術館

Osaka City Museum of Fine Arts

〒543-0063

大阪市天王寺区茶臼山町1-82(天王寺公園内)

<https://www.osaka-art-museum.jp>

●Osaka Metro 御堂筋線「天王寺駅」【西改札】

●Osaka Metro 谷町線「天王寺駅」【15,16,17号出口】※エレベーターは南改札を出て16号出口を出た突きあたりにあります。

●JR「天王寺駅」【中央口改札】 ●近鉄 南大阪線「大阪阿部野橋駅」【西改札口】

●阪堺電気軌道 上町線「天王寺駅前駅」 ●大阪シティバス「あべの橋停留所」下車、北西へ400m(徒歩約10分)

※本展は予約制ではありません。※会期中、一部展示替えがあります。※展示作品、会期などについては諸事情により変更となる場合があります。ご来館前に必ず美術館HP等をご確認ください。

相互割引

本展観覧券(半券可)の提示で、あべのハルカス美術館「手塚治虫 ブラック・ジャック展」(2025年9月27日(土)~12月14日(日))の当日券を100円引きでご購入いただけます。※1枚につきお一人様1回限り有効。他の割引券との併用不可

表: 輪花盆(りんかはん) 大阪市立美術館 撮影:佐々木香輔 1. 瓶子(へいし) サントリー美術館

2. 重要文化財 太鼓櫓(たいこだる) 文明5年(1473)銘 堺市博物館【後期展示】 3. 杉本博司 瑠璃の浄土(るりのじょうど) 2005 小田原文化財団

4. 福富草紙(ふくとみそうし) (甲部分) 2巻のうち 兵庫県立歴史博物館 5. 湯桶(ゆとう) サントリー美術館 6. 菓子器(かしき) 天正元年(1573)銘 名古屋博物館

7. 重要文化財 布薩盥(ふさつらい) 2対4口のうち 水戸大師 六地藏寺 撮影:山崎兼慈【前期展示】